



## 日本作物学会会長候補者の立候補・推薦届け




1. 候補者所属機関・役職・氏名（氏名は自署し捺印すること、写真の貼付は任意）  
東京大学大学院農学生命科学研究科・教授

山岡 陽子 

2. 推薦者所属機関・役職・氏名（立候補の場合も推薦者を記載できる。いずれの場合も推薦者は3名以内。氏名は自署し捺印すること）

(1) 龍谷大学農学部・教授・大門 弘幸 

(2) 東京農工大学大学院農学研究院・教授・大川 泰一郎 

(3) 東北大学大学院農学研究科・教授・本間 香貴 

3. 候補者経歴（職歴、会員歴、役員歴）

職歴： 1985年4月 国際イネ研究所（IRRI）Post-doctoral fellow  
1986年4月 東京大学助手農学部附属農場  
1994年1月 東京大学助教授農学部附属農場  
2010年4月 東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構准教授  
2017年4月 東京大学大学院農学生命科学研究科教授（現在に至る）

会員歴： 1980年～現在

役員歴： 2004年～2010年 2013年～2014年 2016年～現在 評議員  
（この間、英文誌編集委員会幹事、英文誌編集委員、シンポジウム委員、  
男女共同参画WG座長、出版部、用語委員など）

2016年～現在 副会長

4. 選挙公約（推薦による候補者も記載のこと。600字以内）

日本作物学会は、作物の特性と生産の諸原理の解明および技術開発を通じて、長く農業に貢献してきました。そして、現在、世界規模で進行している人口増加や地球環境変動のもとで、日本と世界の作物生産に対する責務を自覚し、貢献することが期待されています。生命科学、情報科学、機械工学などの進歩が著しい中であって、作物学は安定的で持続可能な作物生産の“要”です。収量と品質、安全・安心、環境保全、省力・省エネルギー、防災・減災など多くの課題の中で、研究を推進する必要があります。そのために、情報共有の場として、そして各会員のさらなる研究の発展を支える場として、日本作物学会のより一層の活性化に取り組んでいきたいと思ひます。

丸山前会長、白岩現会長による講演会と学会誌を最重視しながら国際活動などの活性化をはかる方針を継承し、また、これまで財政問題や講演会のあり方について検討・実施されてきた事柄を注視していきます。さらに、下記の諸課題を中心に、皆様からのご提案と各支部会のご意見をふまえた上で、作物学の将来を見据えた学会運営に取り組むたいと思ひます。

- (1) 10th ACSAC 2020（名古屋）の実施とそれに呼応した国際活動強化
- (2) 和文誌・英文誌の一層の充実と発信力強化
- (3) 財政健全化と科研費への対応
- (4) 若手・女性研究者の交流・育成のサポート
- (5) 作物学と作物学会の将来ビジョンに向けた検討